

【調査速報】

彦根市松原町松原内湖遺跡

鎌倉時代の 巻数板を発見!



▲巻数板出土地点 (◀の遺構から出土。内湖側から望む)

国土交通省滋賀国道事務所からの依頼により実施しています彦根市松原内湖遺跡の発掘調査で、鎌倉時代末期の元徳三年(1331)正月八日の巻数板が発見されました。巻数板が出土した調査地点は、物生山を背後に旧松原内湖に面した南北を小さな尾根で囲まれた谷地形にあたります。今回の調査地周辺は、これまでに実施した北部浄化センター関連の工事や国道8号米原バイパス事業に伴う調査により、縄文時代の遺構や奈良時代から室町時代頃にかけての集落が見つかっており、今回の調査でも縄文時代の土坑、奈良時代の掘立柱建物、鎌倉時代から室町時代にかけての柱穴、石柵遺構、溝、井戸などの遺構が見つかっています。



▲出土した卷数板(大きさ縦128mm、横278mm、厚さ7mm)

積文
 奉 転読仁王經一座
 般 若心經十二卷
 觀 世音經十二卷
 奉 懸灌頂十二流
 「卒」
 率 都婆十二本
 右 志者為当年行
 疫 流神等信心大施主
 息 災延增長福寿
 故 也仍状如件
 元 徳三年正月八日
 大 法師
 白 敬

卷数板は第6調査区の中央付近の土坑から廃棄された状態で出土しました。卷数板は、木製で絵馬に近い形です。上部の左右に穴が穿たれていることから、穴に紐を通して、吊るしたものと考えられます。

表面に墨書で、仁王經一座、般若心經十二卷、觀世音經十二卷を転読し、灌頂十二流を懸け、卒塔婆十二本を立て、一年間の息災を祈る願文と元徳三年(1331)正月八日という年号が書かれています。

現在、集落の境に縄を張り卷数板(勸請板)を吊す勸請吊りと呼ばれる道切りの行事が近畿地方を中心に広く行われており、今回の出土した卷数板に書かれた文言と類似したものもあります。こうしたことから、現在行われている勸請吊りの正月行事が、鎌倉時代末まで遡る可能性が指摘できます。なお、今回出土した卷数板は、金沢市堅田B遺跡出土例に次いで2例目の発見となります。



▲卷数板出土状況

紀樞亭（1734～1810）は、山城国鳥羽に生まれました。はじめ岩城藍田のもとで絵を学びましたが、のちに与謝蕪村の門下となります。蕪村は文人画家としてよく知られていますが、実は俳人としても著名な存在であり、俳諧の世界では松尾芭蕉以来もっとも有名な俳人として名をはせていました。

樞亭は蕪村について俳句・絵の両方を一生懸命に学び、松村呉春（1752～1811）とともに、蕪村門下の双璧と呼ばれるまでになりました。とりわけ樞亭は、蕪村の画風をもっとも継承した人物だと言われており、その作風は蕪村の絵と混同されるほどよく似ていました。

天明8年（1788）、京都で史上最大とされる大規模な火災が発生し、京都の町の8割以上が焼失しました。樞亭はこの時、難を逃れるために大津（滋賀県大津市）に身を寄せました。これ以後、樞亭は没するまで大津で暮らすこととなりますが、大津に移り住んでから「湖南九老」の署名を使用するようになりました。つまり「湖南」に住まいしている「九老」ということなのですが、「九」は樞亭の通称である「立花屋九兵衛」の「九」、そして「老」は老いた自分を表しています。樞亭は「湖南九老」のほか「九老山人」などと署名していますが、次第に人々から「近江蕪村」と呼ばれるようになりました。



五老図は、紀樞亭が得意とした画題の一つです。中国・宋代の宰相でもあった杜衍が隠棲したのちに、知人を招いて五人で会を催したという故事があり、これをもとに「五老図」が描かれてきました。

本品では、白い髭をたくわえた白髪の老人たちが、ゴツゴツとした岩場に置かれた大きな机の周囲に座っている様子が描かれています。盃を高くあげる者、隣の人物に寄りかかる者など、みな楽しそうに酒を飲みながら談笑しており、今にも絵から声が聞こえくるようです。画面左上にある「七十二翁」の墨書から、紀樞亭が72歳の時の作品であることがわかります。

本作品を含む琵琶湖文化館の館蔵品7件（月儂筆「飲中八仙図」、横井金谷筆「蘭亭曲水図」、青木夙夜筆「蘭亭流觴図」、「友禅蹴鞠図」、「桜秋草鹿図」のうち「桜図」（屏風）、「源氏物語図」）は、滋賀県立安土城考古博物館における下記の展覧会で公開されますので、是非ご覧ください。

第50回企画展「人ノ性、酒ヲ嗜ム 神を招き 人を結ぶ」

前期「国酒の寿ぎ」：平成26年12月20日（土）～平成27年1月25日（日）

後期「桜花の寿ぎ」：平成27年2月7日（土）～3月15日（日）

会場：滋賀県立安土城考古博物館 企画展示室

※具体的な展示日程については、滋賀県立安土城考古博物館（電話 0748-46-2424）までお問い合わせください。



平成 26 年度下半期ロビー展示

「発掘された近江の城」

今回の展示では、「城」「城下町」「信仰」の3つのテーマを設け、発掘調査でみつかった近江の城に関わる人々の暮らしを遺構写真や遺物で紹介しています。

会期：平成 26 年 9 月 10 日（水）

～平成 27 年 7 月 10 日（金） 9 時～ 17 時

場所：滋賀県埋蔵文化財センター 1 階ロビー展示室

入場料：無料

◎「城」のコーナー

主な展示遺跡：特別史跡安土城跡（金箔瓦など）・史跡観音寺城跡（茶道具など）・肥田城遺跡（調理具・灯りに関する道具）・特別史跡彦根城跡（煎茶道具など）

◎「城下町」のコーナー

主な展示遺跡：観音寺城下町遺跡（まな板など）・佐和山城跡（とりべ・鉄砲玉など）・膳所城下町遺跡（化粧道具・たばこ道具など）

◎「祈り」のコーナー

主な展示遺跡：膳所城下町遺跡（天神の土人形）・佐和山城跡（犬形土製品）・能仁寺遺跡（墨書土器など）

◎当センターの特別公開の日には、展示を見ながらクイズに答えるクイズラリーを実施しています。全問正解された方には、すてきなプレゼントを渡しています。11月3日（月・祝）に開催した「文化ゾーン探検隊」では、たくさんの小学生の皆さんに体験していただきました。次回は平成 27 年 5 月 4 日（月・祝）の予定です。

第 104 回滋賀県埋蔵文化財センター研究会

「平成 26 年度滋賀県発掘調査成果報告会」

平成 26 年度に県内で発掘調査が行われた話題の遺跡について、発掘担当者が映像を使って説明します。最新の発掘調査情報をゲットしよう！

日 時：平成 27 年 3 月 7 日（土）

9 時 30 分～ 16 時 30 分

場 所：コラボしが 21（大津市打出浜 2-1）

入場料・申込み方法：無料。申込みは不要です。

連絡先：滋賀県埋蔵文化財センター

大津市瀬田南大萱町 1732-2

TEL077-548-9681

※内容の詳細につきましては、滋賀県埋蔵文化財センターのホームページをご覧ください。（2月中頃に掲載予定です。）



▲展示室



▲展示品

（左：犬形土製品／佐和山城跡 右：軒丸瓦／特別史跡安土城跡）



▲クイズラリーに挑戦中！



▲昨年のセンター研究会の様子

◆平成 27 年 1 月 1 日／編集・発行：公益財団法人滋賀県文化財保護協会 / 〒520-2122 滋賀県大津市瀬田南大萱町 1732-2 / 電話：077-548-9780 / FAX：077-543-1525 / 印刷：三星商事印刷株式会社
◎本誌の掲載情報は平成 27 年 1 月 1 日現在の情報です。諸般の事情により内容が変更される場合がありますので、お出かけの際はご確認ください。